



2008 今昔館展示模型



2007 西武庫団地リフォーム



2006 N氏の山荘建設



2004 琵琶湖別荘建設



2003 香住古民家移築



2002 大飯古民家移築



2000 朽木研修所離れ

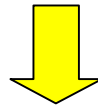
美杉山荘 建設プロジェクト

内装工事 (畳寄せ)

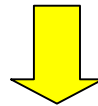
畳を敷く前に、柱の室内側への出っ張りを解消し床面を単純な四角形にすると共に、畳面と壁面の縁を切る役割をするのが“畳寄せ”です。一般的な和室では、柱が室内側に露出しており(真壁)、壁から 15mm程度出ています。畳寄せは柱の内面に合わせて畳天端と同じ高さに取り付けられます。今回の山荘は柱が丸太で、室内側への突出も一本一本バラバラですから、畳寄せの取り付けは手間のかかる仕事になります。また、このような造作工事は、出来上がりが全て見えてしまいますから、材の選定や取り扱いには、軸組工事とは違った慎重さが求められます。



畳は“本間”と呼ばれる6尺3寸×3尺1寸5分の大きさです。これに合わせて床に墨を打ち、畳寄の位置を決めます。



柱の下部を切り込んで、畳寄を差し込み固定します。二本の畳寄が“留め”で接続しています。畳を敷けば天端が揃います。(下)



造作工事に隙間は禁物。“木殺し”という技術を使って、叩き込むことで、将来にわたって隙間の発生を防止します。



取り付け前に、鉋で仕上げます。鉋仕上げも、寸法調整のための機械鉋、荒仕上げ、最後の仕上げと何段階にも及びます。



畳の敷きこみ。柱の下に差し込むように敷きますから、順序を考えないとスムーズに入りません。何事も手順が大切です。



3畳の完成。これを参考に後輩達がもう一室を完成させるでしょう。